

道徳教育と道徳の時間

京都教育大学 小 寺 正 一

1 道徳教育について

道 : 通り道・通い道、正しい筋道・道理
人が守り行うべき正しい道理

徳 : 身につけている品性、そのものに備わっている特性
行為・働き・能力 (徳は得なり)

2 学校における道徳教育

(1) 学校の道徳教育

教育活動全体で

「それぞれの特質に応じて適切な〔道徳的〕指導を行う」

道徳性の育成

(2) 道徳の時間

每学年 毎週 1 時間

計画的、発展的指導

目標

道徳的実践力の育成

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。(学習指導要領・第 3 章)

道徳的実践力 「道徳的価値を実現するための適切な行為を、主体的に選択し実践することが出来るようにする内面的な資質を意味する」

「価値の自覚を深める」

「価値の自覚を深める」とは、(解説書では)

- ・ 道徳的価値そのものの理解、道徳的価値についての理解
- ・ 自分の生き方とのかかわりで、道徳的価値をとらえること
- ・ 価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと

他領域・教科との関係 補充・深化・統合 と 交流

補充とは 道徳的な押さえが不十分なところを補う。

深化とは 主体的な自覚にまで深める、なるほど大切なことだと、得心させる。

統合とは 学習内容・諸価値を関連付けたり構造化すること。

全校的な協力体制の確立

- ・ 計画の作成
- ・ 道徳の時間の指導

家庭や地域社会との連携・協力

(学習指導要領・第3章の第3「計画作成や内容の取り扱いについて」)

道徳の時間の授業の実施や地域教材の開発や活用で「保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図るよう配慮する必要がある。」

3 道徳の時間の学習指導

(1) 学習指導案の内容項目

「主 題」 : ひとまとまりの学習内容

「ねらい」 : 主題毎、時間ごとの具体的な学習のめあて

「資 料」 : 学習素材

主題設定の理由

価値観

生徒観

資料観

(2) 学習指導の過程

基本型 (生活から資料を通して生活へ)

導 入	展開前段	展開後段	終 末
生 活	資 料	生 活	(生 活)

(3) 学習指導過程の構成(学習指導案の作成)

展開前段

ねらいとする価値を資料によって追求把握して、価値理解を深める段階。

展開後段

資料の具体的場面を離れて、ねらいとする価値の意義を確認し、現在や将来の自分の生活の支えとなるように(活用できるように)する段階。

導入

終末